

## アナリスト・機関投資家向け決算説明会を開催いたしました

当社は、2021年1月20日(水)にアナリスト・機関投資家の皆様向けとして、2021年5月期第2四半期決算説明会をオンラインにて開催いたしました。

〈2021年1月20日(水) 15:30~16:30〉

1. 2021年5月期第2四半期業績サマリーについてのご説明  
(経営企画室 経理グループ グループ長 喜屋武 直哉)
2. 2021年5月期第2四半期決算詳細及び2021年5月期通期連結業績予想についてのご説明  
(経営企画室 経理グループ グループ長 喜屋武 直哉)
3. 事業の現状と今後についてのご説明  
(代表取締役社長 木地 伸雄)
4. 注目topicsについてのご説明  
(代表取締役社長 木地 伸雄)
5. 質疑応答

ご説明内容に関しましては、以下に添付しております資料をご参照下さい。

※質疑応答内容は、後日改めて掲載いたします。

以上

お問い合わせ先： 神奈川県横浜市中区山下町 2 番地 産業貿易センタービル 10F  
株式会社インターアクション 経営企画室 IR担当 宛  
TEL 045-263-9220 メール：[ir@inter-action.co.jp](mailto:ir@inter-action.co.jp)

株式会社インターアクション 2021年5月期（第29期）  
第2四半期 決算説明会

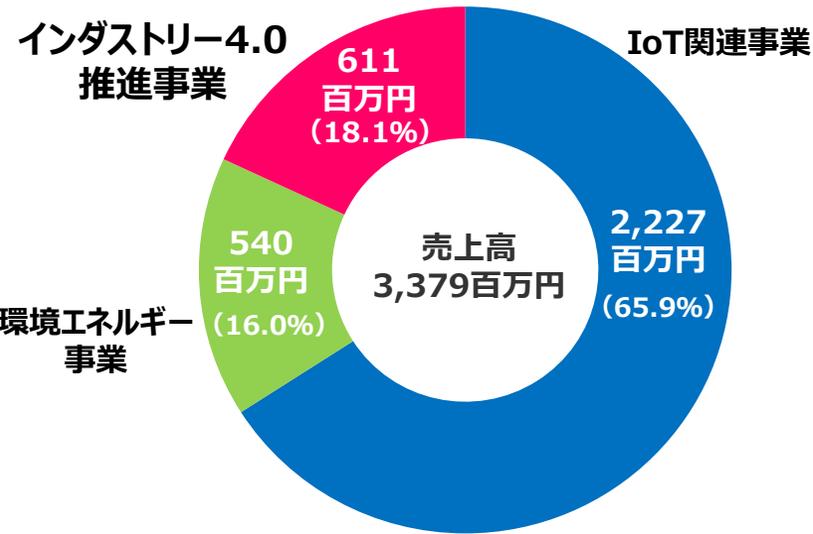
2021年1月20日（水）



- 1. 第2四半期業績サマリー**
  - 2. 2021年5月期 第2四半期 決算詳細**
    - ① IoT関連事業セグメント
    - ② 環境エネルギー事業セグメント
    - ③ インダストリー4.0推進事業セグメント
    - ④ 連結貸借対照表・連結損益計算書
    - ⑤ 連結キャッシュ・フロー計算書
    - ⑥ 受注高・売上高・受注残高
    - ⑦ 2021年5月期 通期連結業績予想
  - 3. 事業の現状と今後**
  - 4. 注目topics その他**
- appendix - 会社紹介 -**

# 1. 第2四半期業績サマリー

# 1. 第2四半期業績サマリー



(百万円)	前第2四半期	当第2四半期	前年同期比増減率
売上高	3,826	<b>3,379</b>	△11.7%
営業利益	915	<b>877</b>	△4.1%
経常利益	916	<b>882</b>	△3.8%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	605	<b>586</b>	△3.2%
1株当たり四半期純利益	55.45円	<b>53.50</b>	-

- ▶ 前年同期比で減収減益。IoT関連事業セグメントにおける国内顧客の設備投資意欲が低調に推移したが、一過性のものと推測。海外顧客においては設備投資に対して積極的な姿勢。第3四半期以降においても海外顧客向け製品が売上高を牽引していくと予想。
- ▶ 環境エネルギー事業においては前年同期比で増収増益だが、受注高及び受注残高は減少傾向にあることから、顧客の新規設備投資に関する意思決定は、より慎重になっていると予想。
- ▶ インダストリー4.0推進事業においては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による不況から回復しきれておらず、売上高、利益ともに前年同期比で減収減益となり、受注高についても伸び悩んだ。

## 2. 2021年5月期 第2四半期 決算詳細

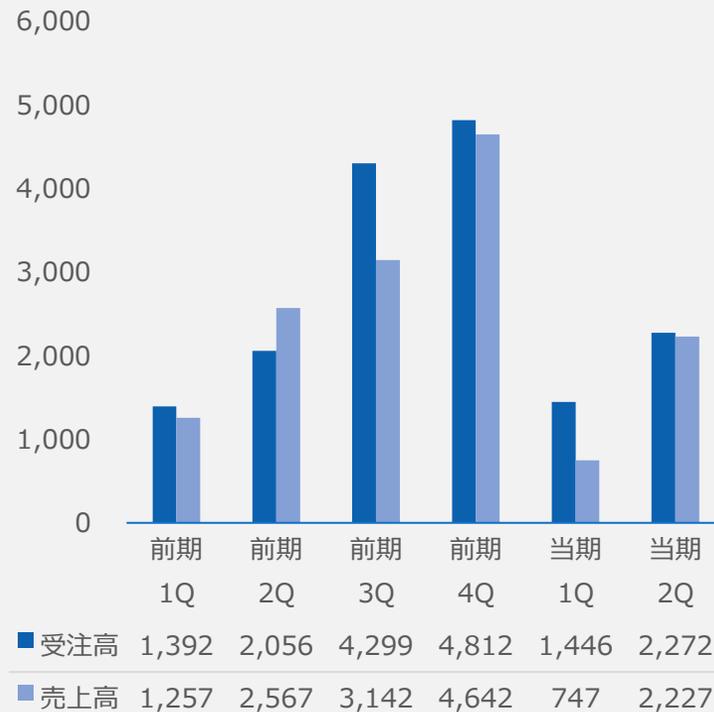
# ① IoT関連事業セグメント

- 光源装置については、米中貿易摩擦による社会情勢を背景として、国内顧客の設備投資意欲が低調に推移。一方海外顧客においては、投資意欲の高い状態が続き、受注高及び売上高が好調に推移。
- 瞳モジュールについては国内顧客の需要が堅調に推移。また、海外顧客における瞳モジュールの採用についても順調に進捗している。
- 複数台のカメラを搭載したスマートフォンの普及に伴い、今後イメージセンサーメーカーによる生産キャパシティの強化は必要になると推測。そのため、中長期的な市場規模の拡大については多少の後ろ倒しはあるものの、新型コロナウイルス感染症拡大前と概ね変わらないと想定している。

売上高・セグメント利益 前年同期比



受注高・売上高推移 (累計)



【外部環境の主な変化】

<p><b>(1) 市場環境</b>            (±) 顧客の投資動向は改善            →売上では、国内光源装置は減少            海外光源装置は増加。            国内競争状況は変わらず。</p>	😊
<p><b>(2) 社会情勢</b>            (±) 米中貿易摩擦            →海外顧客においては主に中国のスマートフォンメーカー向けイメージセンサの需要が増加していると推測</p>	😐
<p><b>(3) 最終アプリケーション</b>            (+) T o F (LiDER)センサーの広がり            →2020年10月発売のiPhone 12に搭載            (+) 複眼スマホの普及            →2眼・3眼スマホの普及量向上</p>	😊

【内部環境の主な変化】

<p><b>(1) 製品・サービス ラインアップ</b>            (+) 製品拡販の推進            →新たに中国企業から光源装置の受注実現</p>	😊
<p><b>(2) 研究開発</b>            (+) 海外向け瞳モジュールのテスト販売及び調整            →量産化に向けた、顧客側の検証が順調に進捗</p>	😊

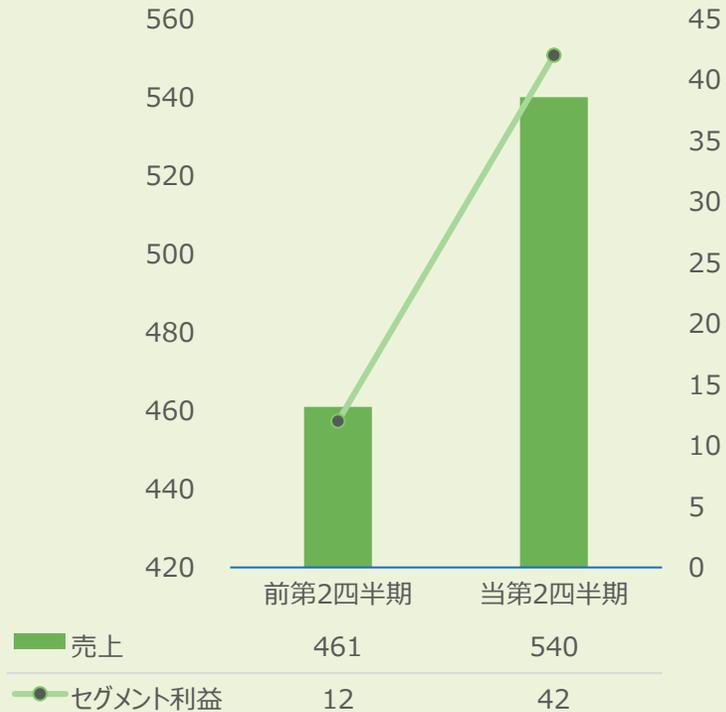
単位：百万円

単位：百万円

## ② 環境エネルギー事業セグメント

- ▶ 新型コロナウイルス感染症拡大前の受注案件や、設備移設に関する大型工事案件の計上により、前年同期と比較して増収増益。
- ▶ 受注高及び受注残高は減少傾向にあることから、顧客の新規設備投資に関する意思決定は、より慎重になっていると予想。
- ▶ 今後は金額が大きく、顧客にとって投資のハードルが高い新規設備の営業ではなく、既存設備の性能向上等を顧客にアプローチするメンテナンス工事の営業に注力。

売上高・セグメント利益 前年同期比



受注高・売上高推移 (累計)



### 【外部環境の主な変化】

#### (1) 社会情勢

- (-) 新型コロナウイルス感染症拡大の影響
  - 新規設備投資意欲の低下
  - 設備投資計画の見直し
  - 受注高の減少



### 【内部環境の主な変化】

#### (1) 営業方法

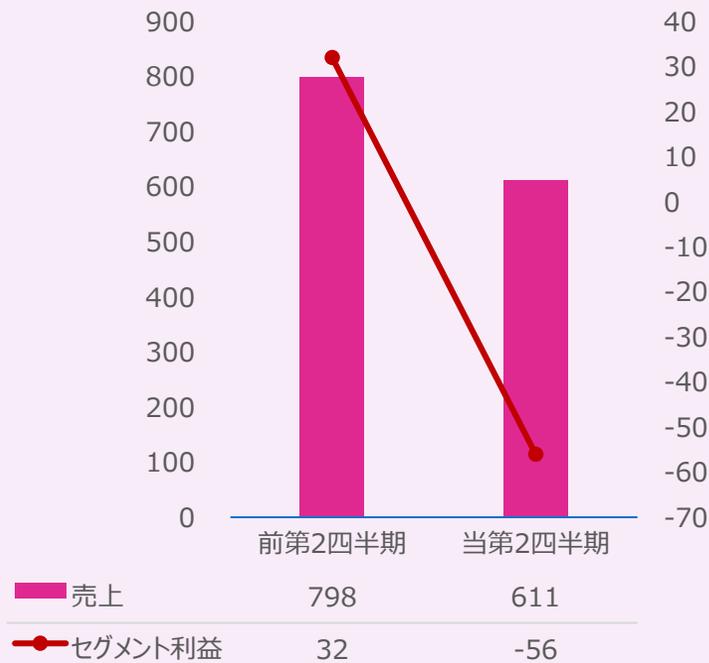
- (+) メンテナンス工事案件の推進
  - 既存設備の性能向上など売上高 < 利益を重視
  - 自社製品のメンテナンスであるため競合無し



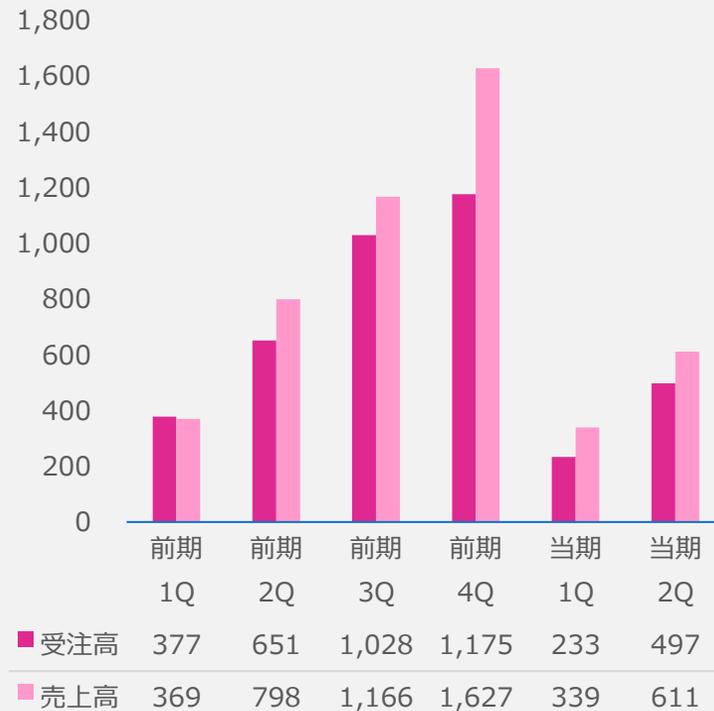
### ③ インダストリー4.0推進事業セグメント

- セグメント全体を通して、新型コロナウイルス感染症の影響による不況から回復しきれておらず、各業界の設備投資意欲は引き続き低調に推移し、売上高及び受注高が伸び悩んだ。
- 精密除振装置：売上高の確保が難しい状況となった。改善策として現行製品の高性能化や新製品の開発を推進し、海外においては人材の育成及び技術向上を図る。
- 歯車試験機：売上高及び受注高が減少。しかしながら、第3四半期以降においては市況回復の兆しあり。新製品である「歯車欠陥検査装置」を販売開始。

売上高・セグメント利益 前年同期比



受注高・売上高推移 (累計)



【外部環境の主な変化】

(1) 社会情勢

- (-) 新型コロナウイルス感染症拡大の影響
  - 顧客側における生産調整の実施
  - 設備投資意欲の未回復
  - 渡航制限



【内部環境の主な変化】

(1) 新規事業

- (+) レーザー加工機事業の推進
  - セラミックのアブレーション加工技術を他社に提案  
複数社から引き合い有り
- (+) FA画像処理関連装置の開発推進
  - 「歯車欠陥検査装置」の販売開始  
顧客からの評価◎  
拡販に向け検証を重ねる
- (+) 既存装置の性能アップ開発は順調に進捗



## ④ 連結貸借対照表・連結損益計算書

### 連結貸借対照表

(百万円)	2020年	2021年	負債	2020年	2021年
	5月期	第2四半期		5月期	第2四半期
<b>資産</b>			<b>負債</b>		
資産 計	10,005	<b>10,835</b>	負債 計	2,132	<b>2,387</b>
流動資産	8,575	<b>9,452</b>	流動負債	1,645	<b>1,759</b>
固定資産	1,430	<b>1,383</b>	固定負債	487	<b>628</b>
有形固定資産	682	<b>668</b>			
無形固定資産	327	<b>301</b>	<b>純資産</b>		
投資その他の資産	420	<b>414</b>	純資産 計	7,872	<b>8,448</b>
			株主資本	7,908	<b>8,475</b>
			資本金	1,760	<b>1,760</b>
			資本剰余金	3,352	<b>3,352</b>
			利益剰余金	3,870	<b>4,253</b>
			自己株式	△1,074	△ <b>891</b>
			その他の包括利益累計額	△35	△ <b>26</b>
資産 合計	<u>10,005</u>	<u><b>10,835</b></u>	負債・純資産合計	<u>10,005</u>	<u><b>10,835</b></u>

### 連結損益計算書

(百万円)	前第2四半期	当第2四半期
<b>実績</b>		
売上高	3,826	<b>3,379</b>
売上原価	1,852	<b>1,682</b>
売上総利益	1,973	<b>1,697</b>
販売費及び一般管理費(注)	1,058	<b>819</b>
営業利益	915	<b>877</b>
経常利益	916	<b>882</b>
特別利益	—	—
特別損失	0	<b>7</b>
税金等調整前四半期純利益	916	<b>874</b>
法人税、住民税及び事業税	251	<b>279</b>
法人税等調整額	59	<b>8</b>
法人税等合計	310	<b>288</b>
四半期純利益	605	<b>586</b>
親会社株主に帰属する四半期純利益	605	<b>586</b>

(注)販売費及び一般管理費のうち主な費用

研究開発費	66	<b>26</b>
のれん償却額	26	<b>24</b>

## ⑤ 連結キャッシュ・フロー計算書

### 営業活動による キャッシュ・フロー

1,385 百万円

(百万円)	前第2四半期	当第2四半期
税金等調整当期純利益	916	874
売上債権の増減額 (△は増加)	667	392
たな卸資産の増減額 (△は増加)	166	111
その他の増減額	12	124
小計	1,762	1,503
法人税等の支払額等	△513	△118
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,249	1,385

### 財務活動による キャッシュ・フロー

10 百万円

(百万円)	前第2四半期	当第2四半期
短期借入金の純増減額 (△は減少)	30	40
長期借入による収入	30	293
長期借入金の返済による支出	△186	△129
自己株式の取得による支出	△418	-
配当金の支払額	△199	△202
その他の増減額	76	9
財務活動によるキャッシュ・フロー	△667	10

### 投資活動による キャッシュ・フロー

△22 百万円

(百万円)	前第2四半期	当第2四半期
有形固定資産の取得による支出	△109	△49
無形固定資産の取得による支出	△3	△7
その他の収入・支出	1	35
投資活動によるキャッシュ・フロー	△111	△22

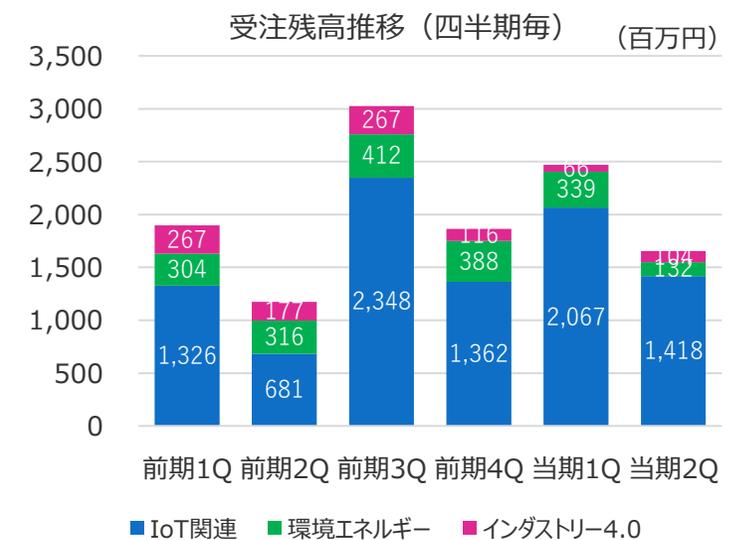
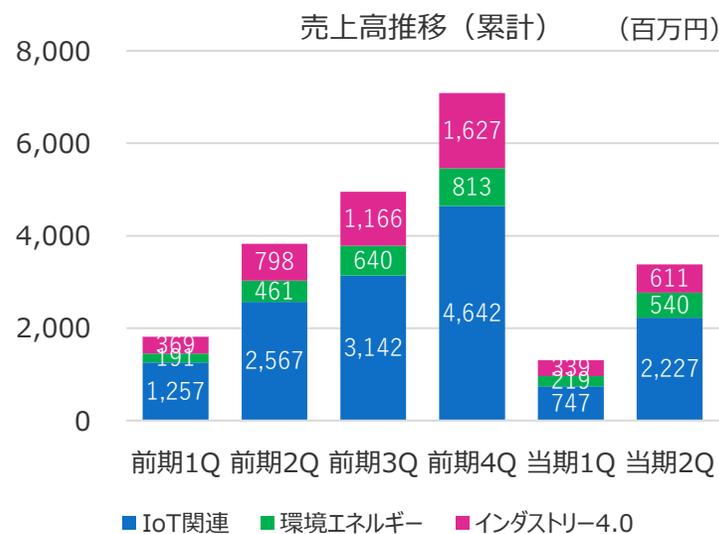
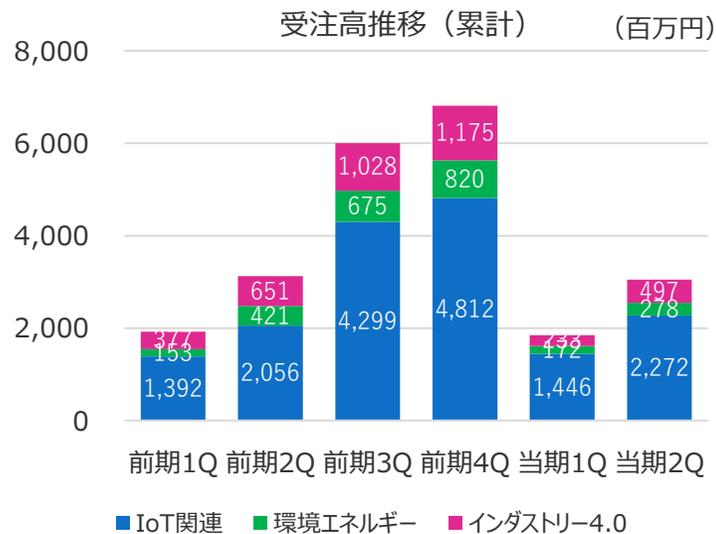
### 現金及び現金同等物の 四半期末残高

6,247 百万円

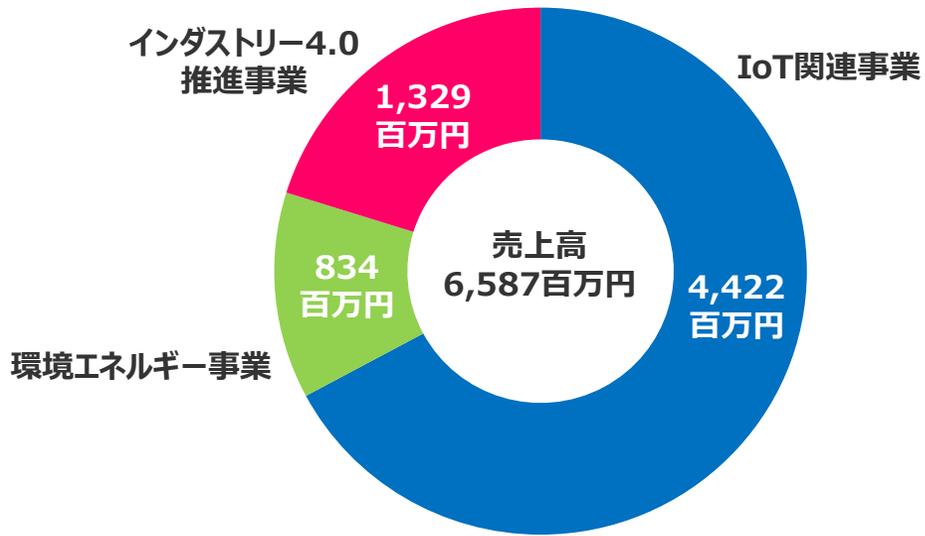
(百万円)	前第2四半期	当第2四半期
現金及び現金同等物に係る換算差額	△5	0
現金及び現金同等物の増減額	464	1,374
現金及び現金同等物の期首残高	4,766	4,873
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,231	6,247

## ⑥ 受注高・売上高・受注残高

事業セグメント (百万円)	当第2四半期受注高		当第2四半期売上高		当第2四半期受注残高	
	金額	前年同期比 増減率	金額	前年同期比 増減率	金額	前年同期比 増減率
IoT関連事業	2,272	10.5%	2,227	△13.3%	1,418	108.0%
環境エネルギー事業	278	△33.8%	540	17.3%	132	△58.1%
インダストリー4.0推進事業	497	△23.7%	611	△23.4%	104	△41.3%
合計	3,048	△2.6%	3,379	△11.7%	1,655	40.8%



## ⑦ 2021年5月期 通期連結業績予想



(百万円)	2020年 5月期実績	2021年 5月期予想	前期比 増減率
売上高	7,083	<b>6,587</b>	△7.0%
営業利益	1,555	<b>1,707</b>	9.7%
経常利益	1,545	<b>1,697</b>	9.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,004	<b>1,122</b>	11.7%
1株当たり当期純利益	91.94円	<b>102.26円</b>	—

### 【IoT関連事業】

海外顧客において設備投資が積極的に行われており、光源装置の販売が好調となる見通し。一方、国内顧客においては光源装置と比較して販売単価の低い瞳モジュールを中心として設備投資が行われる見通しであるため、通期の売上高は前期と比べて減収すると推測。設備投資意欲は国内顧客を含めて全体的に前向きとなっている。

### 【環境エネルギー事業】

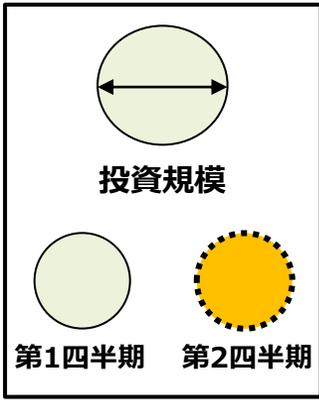
印刷機業界における市場規模の縮小傾向に加え、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により乾燥脱臭装置といった本体装置の受注は停滞しているものの、売上高については増収となる見通し。今後は金額が大きく、顧客にとって投資のハードルが高い新規設備の営業ではなく、既存設備の性能向上等を顧客にアプローチするメンテナンス工事の営業に注力。

### 【インダストリー4.0推進事業】

歯車試験機においては、自動車メーカーを中心に市況感は回復する兆しが見えているが、精密除振装置などを含むセグメント全体を通しては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による顧客の設備投資意欲低下により、売上高は前期より減収となる見通し。中長期的な成長につながる新規製品の開発・販売及び人材育成に注力。

# 3. 事業の現状と今後

### 3. 事業の現状と今後：上半期 イメージセンサ関連メーカーの投資動向（予測）



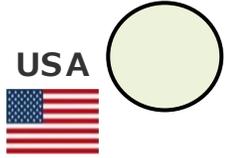
- ・慎重姿勢から回復見込み
- ・新工場設立に伴い  
今後長期的な投資増加？
- ・多機能デバイスの実現
- ・米中関係に伴い顧客ベースに変化
- ・瞳モジュールの引き合い **強**

**中長期的投資意欲 強**  
long

**短期的投資意欲 弱**

**短期的投資意欲 強**

- ・車載向けセンサを中心に  
中長期的に需要増
- ・投資動向不透明  
注視必要



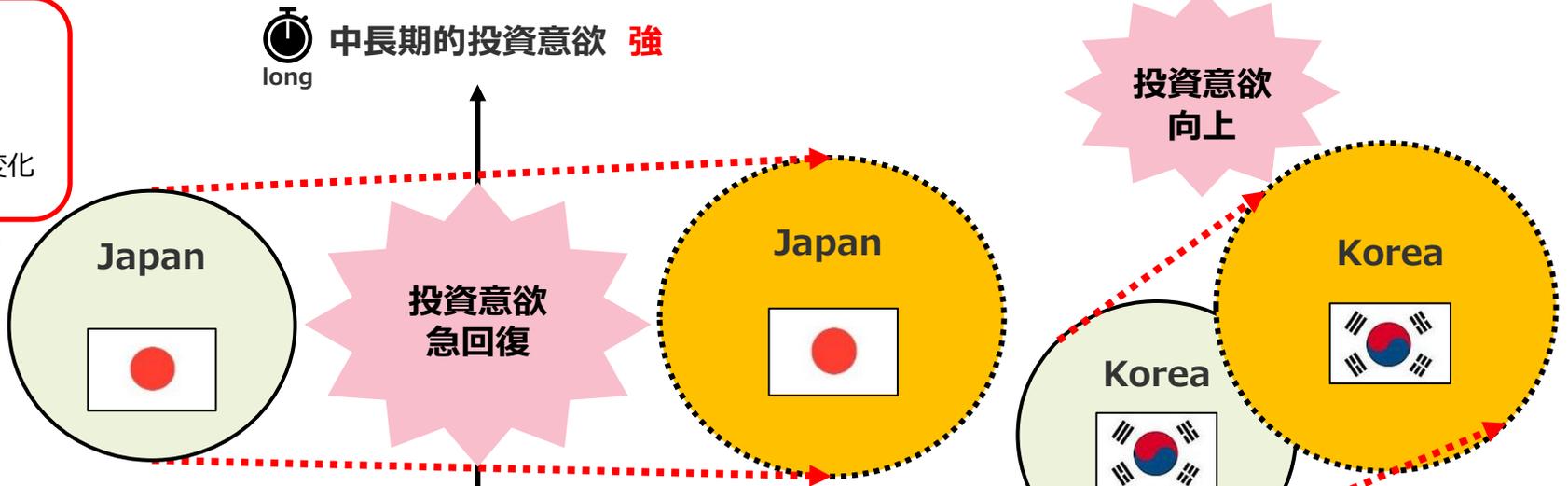
- ・新規受注の実現
- ・投資動向不透明  
注視必要



- ・投資意欲引き続き好調
- ・生産性をさらに向上
- ・瞳の大量生産も視野？  
➔シェア拡大を推進

**short**

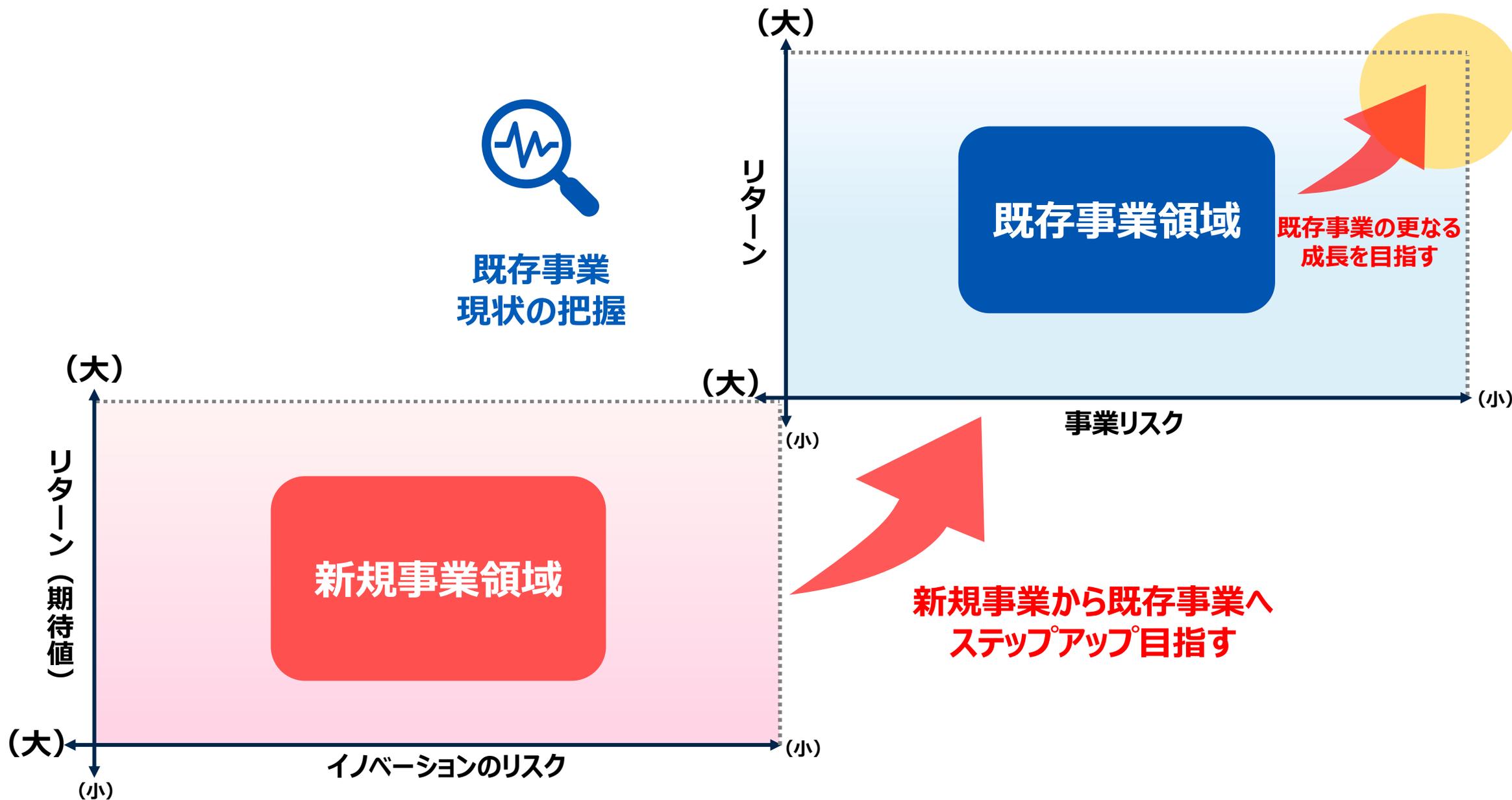
**中長期的投資意欲 弱**



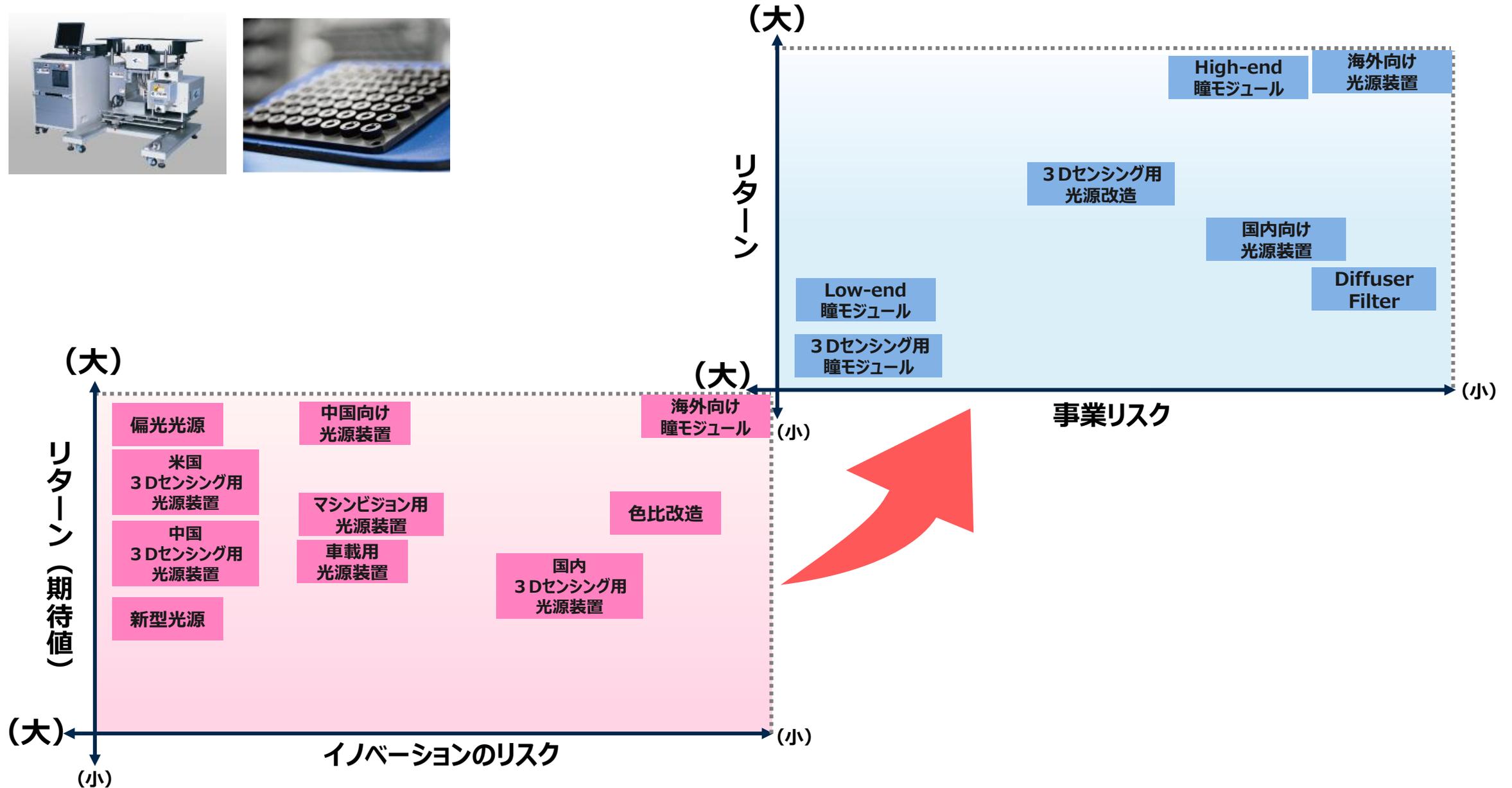
### 3. 事業の現状と今後：製品ポートフォリオ 概要



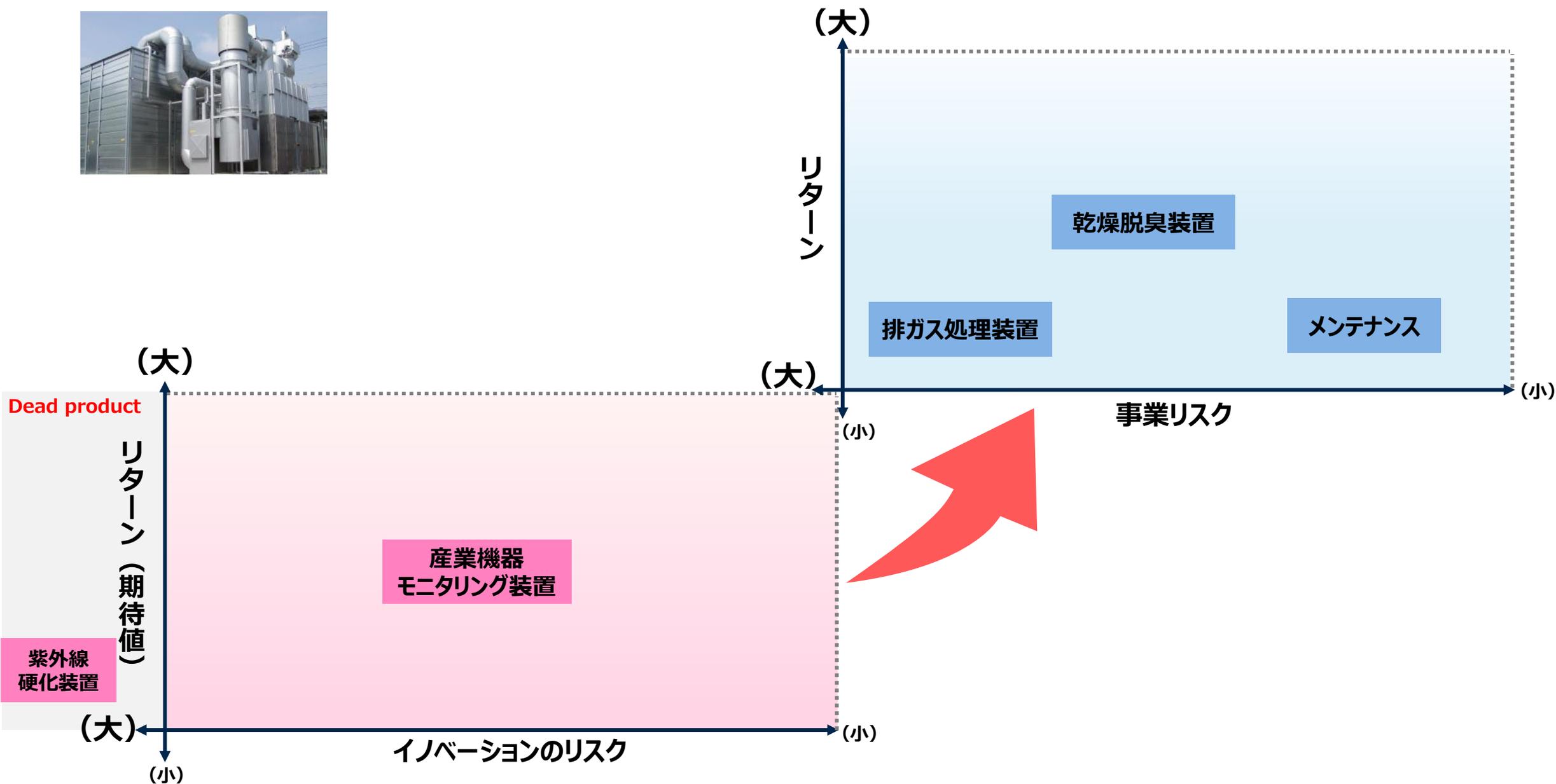
既存事業  
現状の把握



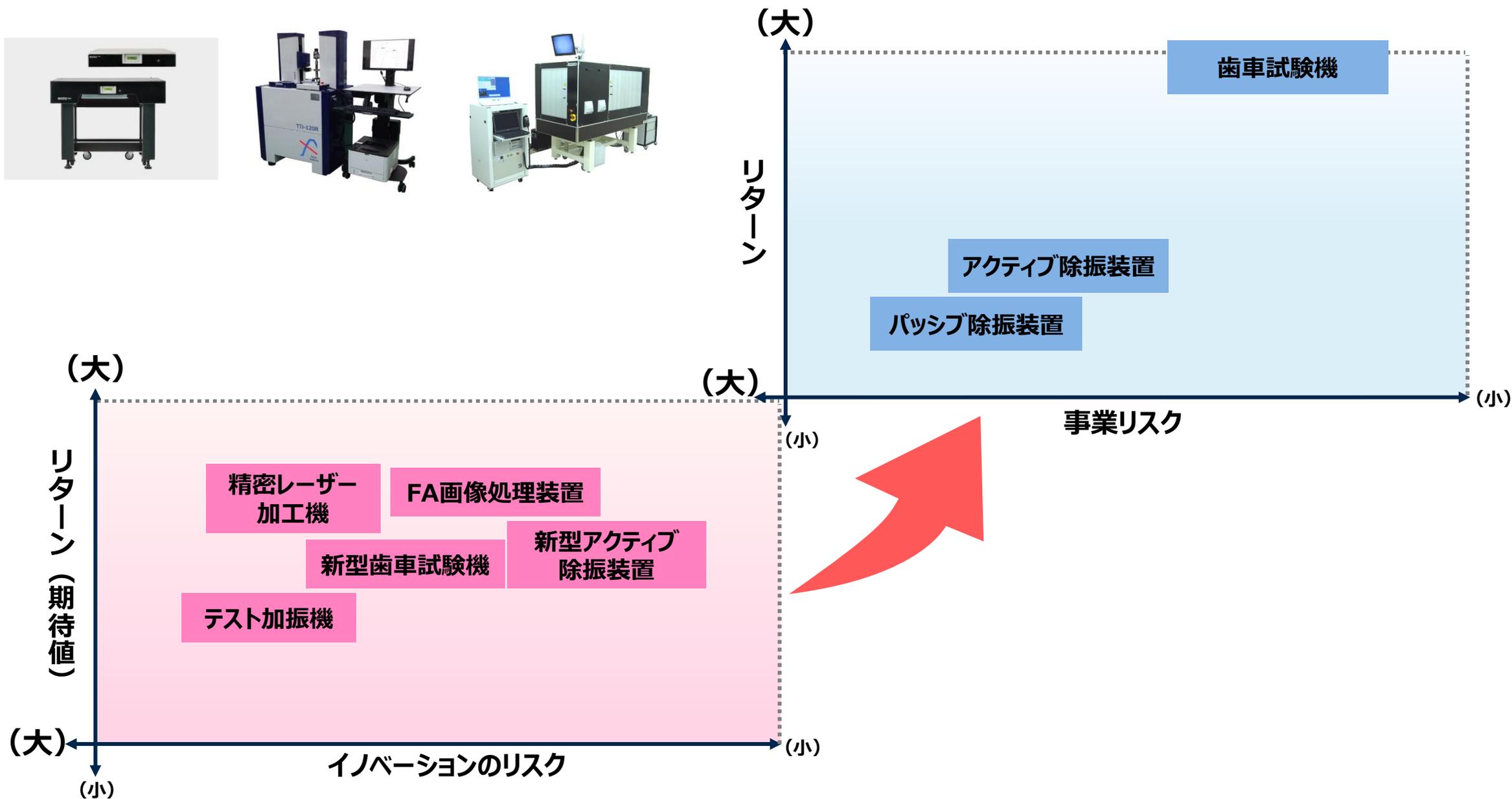
### 3. 事業の現状と今後：製品ポートフォリオ（Iot関連事業）



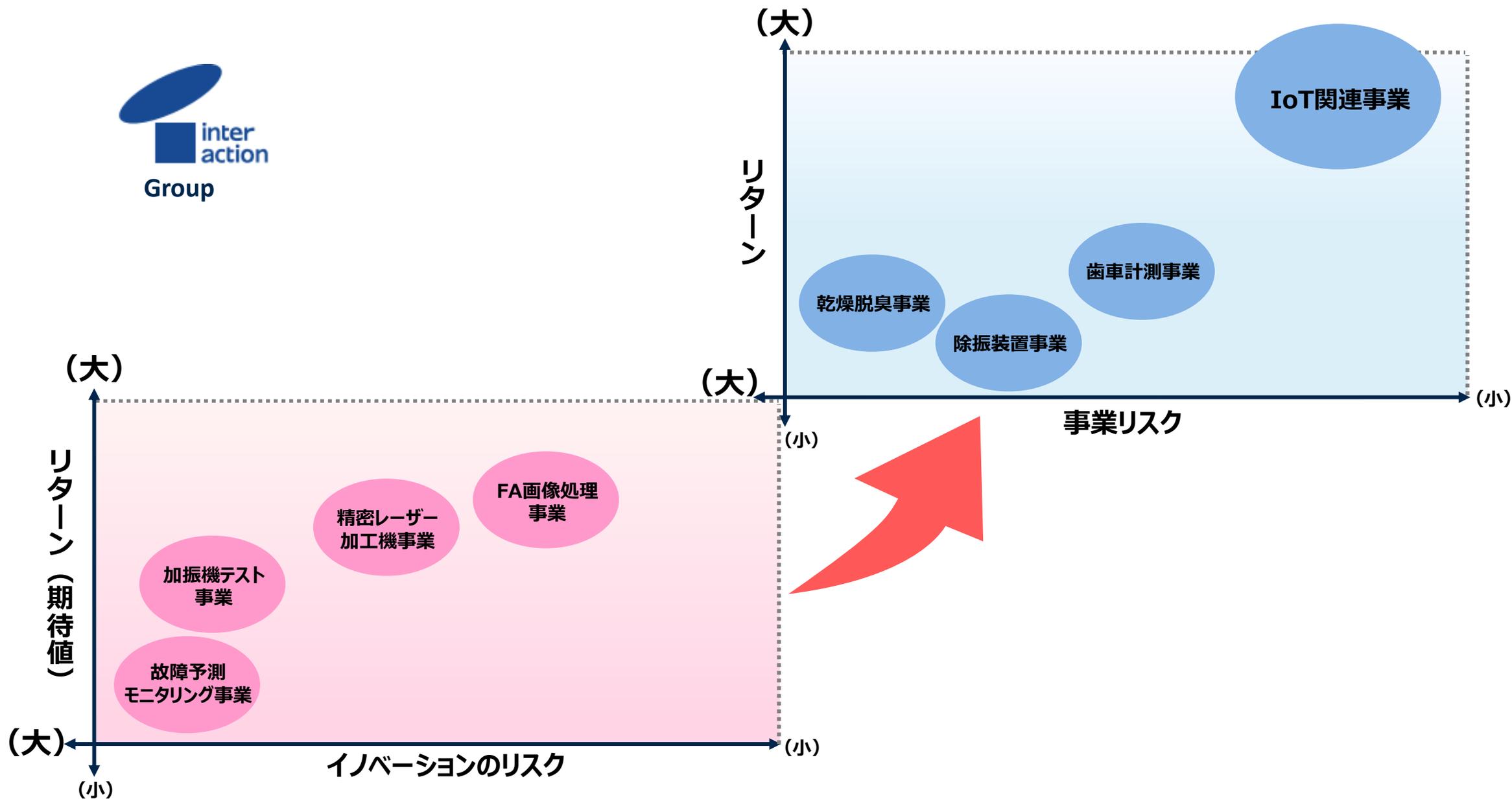
### 3. 事業の現状と今後：製品ポートフォリオ（環境エネルギー事業）



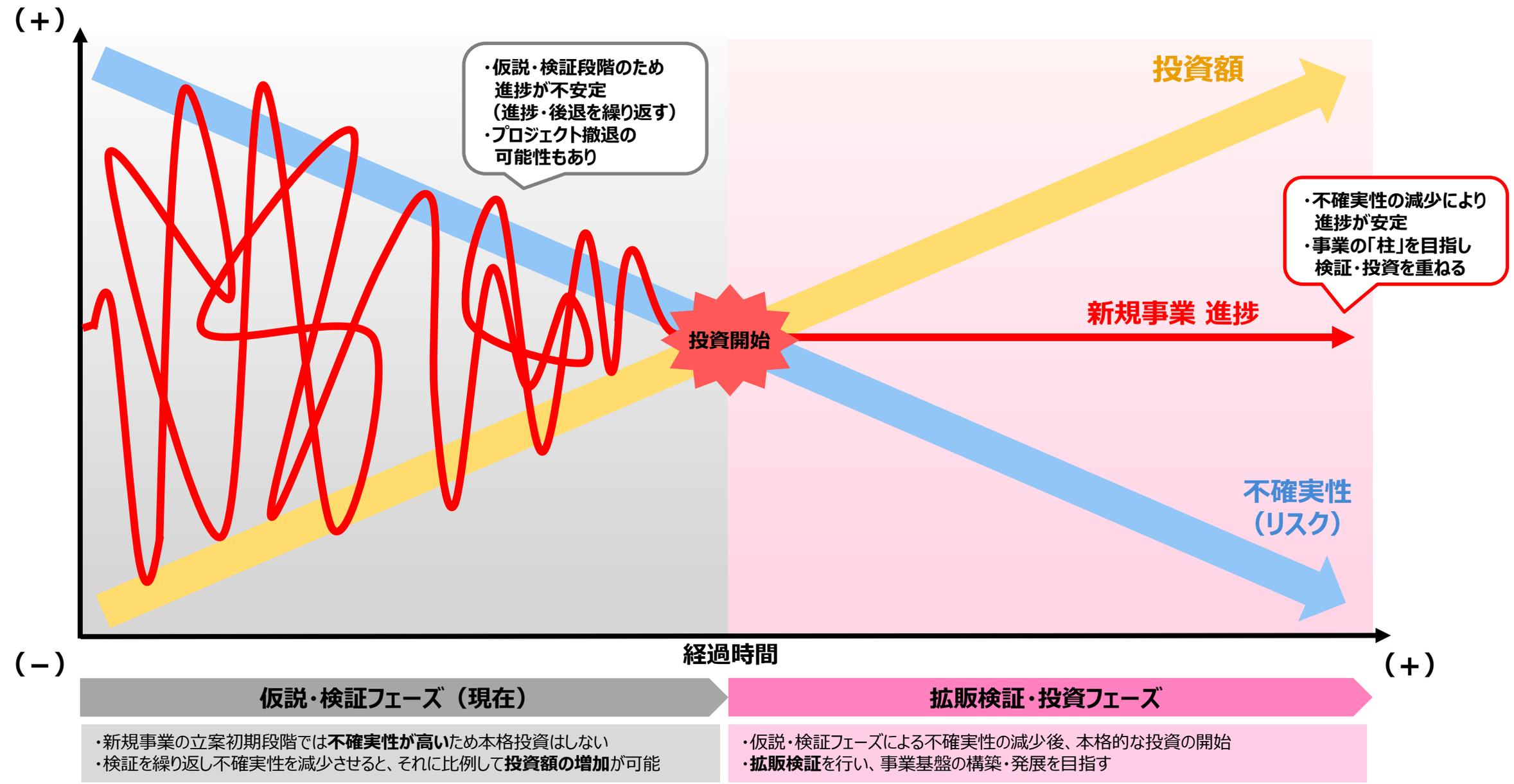
### 3. 事業の現状と今後：製品ポートフォリオ（インダストリー4.0推進事業）



### 3. 事業の現状と今後：ポートフォリオ（事業全体）



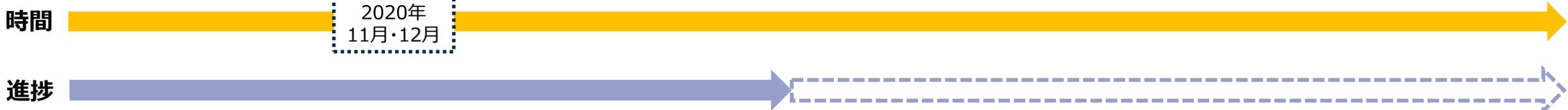
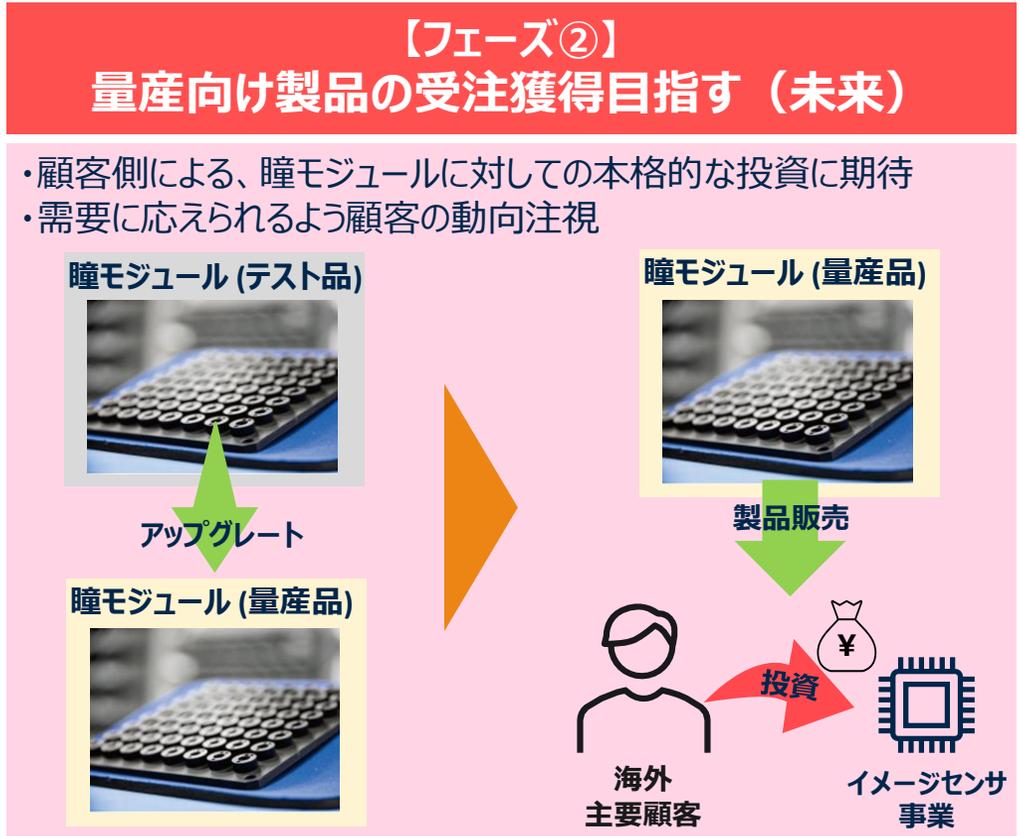
### 3. 事業の現状と今後：新規事業の進捗イメージ



## 4. 注目topics その他

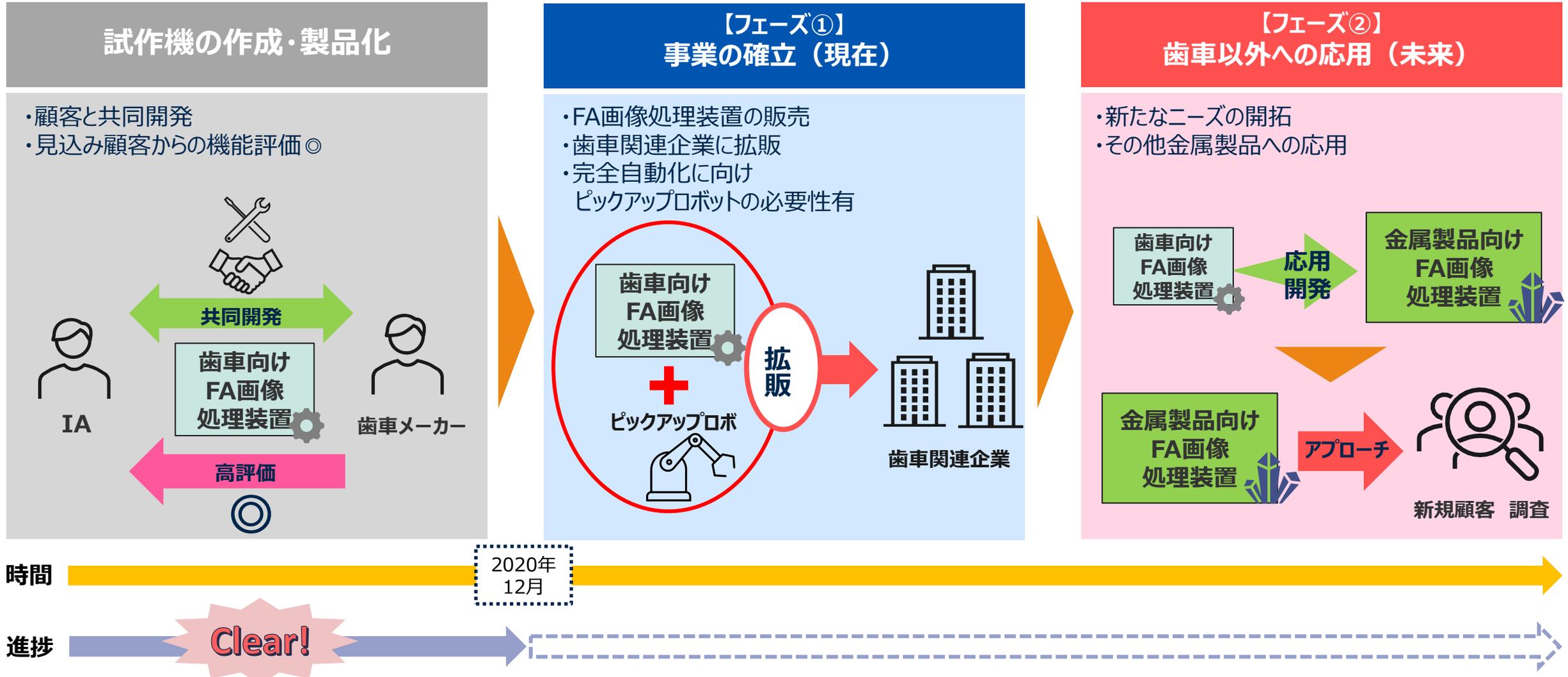
# ①海外顧客向け瞳モジュール 進捗と今後

- ・顧客側において、テスト品の検証から量産品にシフトしていく予兆あり。需要増加見込み。(フェーズ①)
- ・フェーズ①のテスト品から脱却。量産に向けた販売基盤を構築する。安定受注を目指す。(フェーズ②)



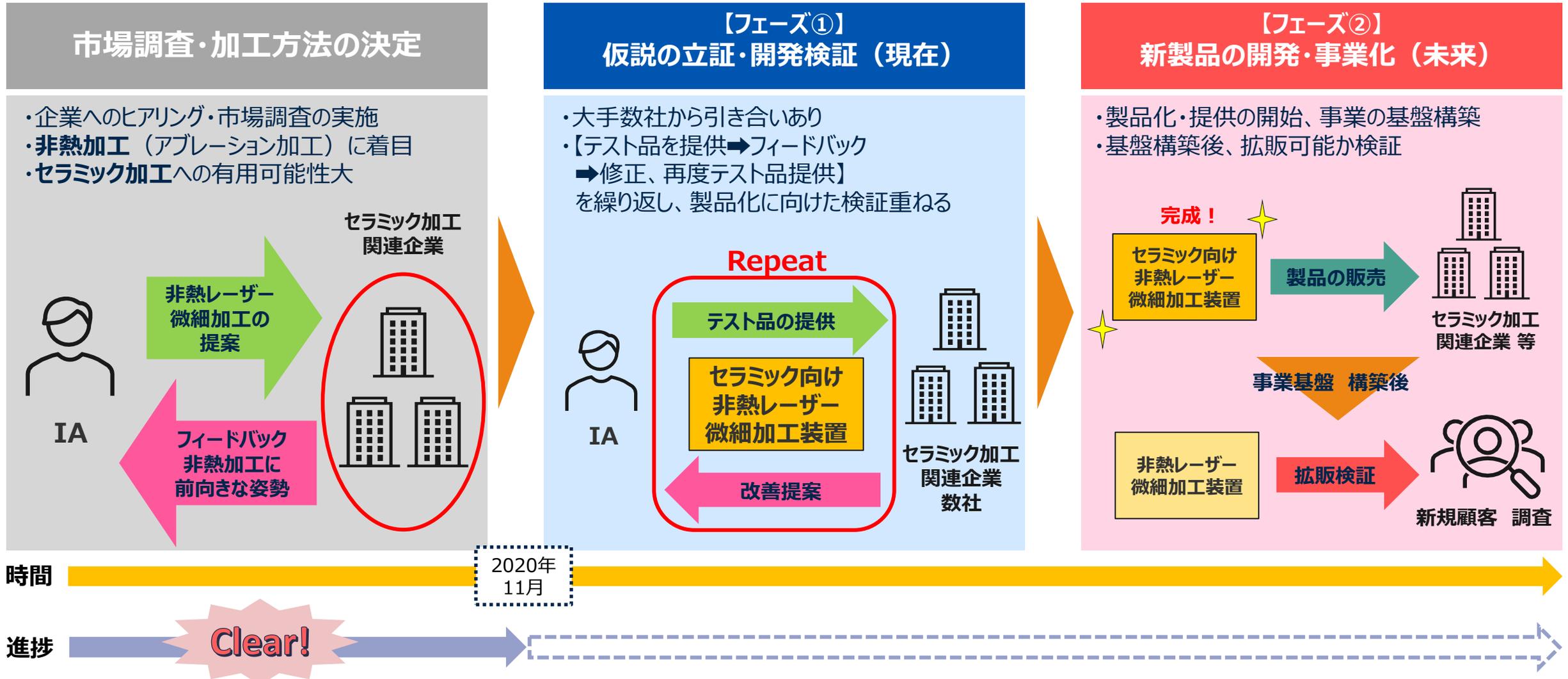
## ②FA画像処理事業 進捗と今後

- ・現段階では試作機の完成、製品化まで完了。今後は製品の拡販検証を行い、事業規模の拡大を目指す。(フェーズ①)
- ・フェーズ①の状況によって、さらに歯車分野以外への応用を検証。新しい市場の開拓を目指す。(フェーズ②)



### ③レーザー加工機事業 進捗と今後

- ・現段階では市場調査・加工方法及び物質の選定まで完了。今後は製品の開発検証を行い、仮説が正しいか判別する。（フェーズ①）
- ・フェーズ①の状況によって、検証を推進。製品化に注力し事業化を目指す。（フェーズ②）



## ④「JPX日経中小型株指数」構成銘柄への選定

- ・株式会社東京証券取引所および株式会社日本経済新聞社が共同で算出を行っている  
※「JPX 日経中小型株指数」の 2020 年度（2020 年 11 月 30 日～2021 年 8 月 30 日）構成銘柄として選定。



# JPX-NIKKEI Mid Small

※「JPX 日経中小型株指数」は、「投資者にとって投資魅力の高い会社」を構成銘柄とする「JPX 日経インデックス 400」と同じコンセプトを中小型株に適用し、資本の効率的活用や投資者を意識した経営を行っている企業を選定するもの。

# appendix - 会社紹介 -

商号	株式会社インターアクション INTER ACTION Corporation	上場市場	東京証券取引所 市場第一部
設立	1992年6月25日	証券コード	7725
代表者	代表取締役社長 木地 伸雄	事業年度	自6月1日 至 5月31日
資本金	1,760百万円	URL	<a href="http://www.inter-action.co.jp">http://www.inter-action.co.jp</a>
従業員	139名（2020年5月末時点 グループ全体）	グループ会社	株式会社エア・ガシズ・テクノス 明立精機株式会社 株式会社東京テクニカル 西安朝陽光伏科技有限公司 陝西明立精密设备有限公司 MEIRITZ KOREA CO.,LTD Taiwan Tokyo Technical Instruments Corp. TOKYO TECHNICAL INSTRUMENTS (SHANGHAI) CO.,LTD 株式会社ラステック
本社所在地	神奈川県横浜市金沢区福浦1-1 横浜金沢ハイテクセンター14階 TEL:045-788-8373 FAX:045-788-8371		
事業所	横浜市中区・熊本県合志市		

重要指標	Equity Spread ROE WACC
配当方針	総還元性向30%
M&A方針	成長分野・今後成長を見込める分野であること 培ってきた技術や事業のノウハウが、事業展開に活用できる分野であること 5年間の想定キャッシュ・フローをWACCで割り引いたNPVがプラスになること

## メール配信サービス

インターアクショングループに関する様々な情報をメールでお届けします

当社HP「メール配信サービス」画面

[http://www.inter-action.co.jp/ir/ir\\_mail/](http://www.inter-action.co.jp/ir/ir_mail/)

もしくは下記QRコードよりご登録下さい

ご登録いただきました情報は、IRメール配信サービスのみを使用します。

個人情報の取り扱いにつきましては、当社ホームページに記載しております「個人情報保護方針」をご参照下さい

<http://www.inter-action.co.jp/privacy/>



## お問い合わせ

株式会社インターアクション

経営管理部 IR担当

神奈川県横浜市中区山下町2番地 産業貿易センタービル10階

TEL : 045-263-9220

<http://www.inter-action.co.jp/inquiry/>

HPお問い合わせ画面よりお問い合わせ下さい





### 注意事項

本資料に記載されている情報には、将来の業績等に関する見通しが含まれております。これらの見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づいて当社グループにより判断されたものであり、様々な潜在的なリスクや不確定要素を含んでおります。実際の業績等は、今後の事業領域を取り巻く経済状況、市場の動向等の影響を受けるものであり、記載された見通しと大きく異なる結果となることをご承知置き下さい。

本資料で提供している情報に関しては、万全を期しておりますが、その情報の正確性及び完全性を保証するものではありません。また、予告なしに内容が変更または廃止される場合がございますので、予めご了承ください。

事前の承諾なしに本資料に掲載されている内容の複製・転用等を行うことを禁止します。

